

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103722
法人名	有限会社アイファミリー
事業所名	グループホームファミリー
所在地	愛媛県松山市今在家1-11-12
自己評価作成日	平成24年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>日中、リビングには半数程の利用者さんが集まり、フーセンバレーや貼り絵などをし、過ごされている。 食事には施設保有の畑で作られた無農薬野菜が食卓を飾ります。おせち料理は職員の手作りで、楽しみにしている利用者さんも多いです。季節感を大切にしたい、お食事は利用者さんによるこばれています。 家庭的な施設です。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年4月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●日頃の散歩時、地域の方と声をかけ合ったりしながら関係が作られている。時には旬の野菜や花をいただくこともある。近くの小学校の運動会を見に出かけたり、毎年地方祭には、事業所の庭に子ども神輿が据えられ、子ども達に声をかける利用者もいる。地域内には、商店街の空き店舗を利用した地域の方達が集える場所があり、利用者も時々出かけておられる。又、地域のふれあいサロンで、お芝居を見たり、ゲーム等に参加して地域の方達と交流を楽しまれている。 ●地域のふれあいサロンに出かけた際に、以前からの知り合いにお会いすることもあり、又、新しいお友達ができたりしている。一緒に囲碁を楽しまれたこともある。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミリー

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 統括部長 満田 貴子

評価完了日 平成24年4月12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営			
1	1	<p>(自己評価) 利用者の自立した生活を支援できるよう、理念のもと、季節感を大切にしながら家庭的で温かみのある生活・介護を心がけ、実践している。 定期的な勉強会開催、必要と思われる研修には積極的に参加する。また、研修で習得したことを他の職員に勉強会で伝え日々のケアの向上に繋がるようにしている。</p>	
		<p>(外部評価) 今年度、事務長や管理者の交代があり、事業所理念を見直されたが、「初心に立ち帰る」という意味からも、以前からの理念「無理をせず、あなたのやりたいことをしましょう、私達がお手伝いしますから」を継続することになったようだ。今後は、毎月、職員で話し合い目標を決めて、「より利用者視線での支援」に努力していきたいと話しておられた。</p>	
2	2	<p>(自己評価) 事業所が地域とのつながりを持てるよう、地域で行われている行事や催しに積極的に参加している。</p>	
		<p>(外部評価) 日頃の散歩時、地域の方と声をかけ合ったりしながら関係が作られている。時には旬の野菜や花をいただくこともある。近くの小学校の運動会を見に出かけたり、毎年地方祭には、事業所の庭に子ども神輿が据えられ、子ども達に声をかける利用者もいる。地域内には、商店街の空き店舗を利用した地域の方達が集える場所があり、利用者も時々出かけておられる。又、地域のふれあいサロンで、お芝居を見たり、ゲーム等に参加して地域の方達と交流を楽しまれている。</p>	
3		<p>(自己評価) 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p> <p>あまり活かしていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	(自己評価) 利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いは行っているが、そこでの意見をサービスなかなか上手に活かせていない。	
		(外部評価) 2月の会議では、職員の介護の取り組みを具体的に事例を挙げて報告され、参加者からは、「認知症について理解が深まった」「ケアの再認識できた」と感想をいただいた。ご家族からは、「最近、落ち着いてきている。穏やかになってきた」とサービスを利用しての感想等もいただいた。	
5	4	(自己評価) 運営推進会議時には市の担当の方から、アドバイスをいただき実践している。	
		(外部評価) 市の担当者の方から「感染症注意報」や「セミナーの案内」についての情報を教えていただいたり、運営推進会議時、事業所から消防訓練の取り組みについて報告した際には、「他事業所の取り組みの情報を得たり、近所の方の協力を得られるよう考えてみてはどうか」等、提案をしていただいた。	
6	5	(自己評価) どうということが虐待なのか、また、虐待が発生しないよう職員間で虐待防止に努めている。また、虐待を見逃すことのないよう職員全員で、日々の職員の利用者に対する言葉がけや態度等を確認し、虐待防止のため、指導をしている。	
		(外部評価) 以前、利用者がお一人で出かけて探されたこともあり、事業所では、現在、玄関やベランダは、ほぼ施錠されている。「出かけた」と言われる利用者には、職員と一緒に出かけ支援されている。車椅子に乗って食事やラジオ体操を行っている時、立ち上がろうとされて、転倒した利用者もあり、お一人は安全ベルトを着けておられる。事業所内やエレベータや階段を使い、自由に行き来される利用者の様子がみられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		<p>(自己評価)</p> <p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>高齢者虐待防止法等について学ぶ機会が持っていないので学べる場や時間を確保したい。</p>	
8		<p>(自己評価)</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p> <p>日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が持っていないので学べる場や時間を確保したい。</p>	
9		<p>(自己評価)</p> <p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>入所時または退所時にはきちんと説明を行っている。また、家族等が不安や疑問を言われた際には、至急対応し、理解・納得していただけるような状態である。</p>	
10	6	<p>(自己評価)</p> <p>利用者からの意見・苦情・不満等は統括部長がお伺いし、早期検討・対応等するよう心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室で居ることが多い利用者について、ご家族から「もう少しフロアで過ごせるようケアしてほしい」というような要望があったり、「今月、請求額が多かったがどうしてか」等、疑問に感じることは直接言ったださっているようだ。「事業所のことをご家族にもっと知ってもらいたい」との事業所の思いから、今年度からブログを立ち上げ、事業所や利用者の様子の情報を公開されている。今後、管理者が正式に決定した折には、電話や手紙でご家族にあいさつする予定となっている。</p>	<p>サービスを利用する側であるご家族の声は、事業所のサービス改善へのきっかけでもあり、事業所の運営やケアについてご家族が気付いたことがあれば、出していただけるような機会や雰囲気作りの工夫を重ねていかれてほしい。又、ご家族と交流する機会を積極的に作り、ご家族との信頼関係作りに取り組んでいかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			定期的に行う事業所の勉強会時に統括部長が職員からの意見等を聞き、改善すべき点等は代表者に伝え、対応するようにしている。	
			(外部評価)	
			事務長等は、今後、「外部研修への参加を促し、研修内容を利用者の支援につなげたい」「もっと職員一人ひとりが自由な意見を出し合える環境を作りたい」と話されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			休日はなるべく希望に沿うよう考慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			一度研修に行った職員がいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			できていないが今後しなければいけないと思っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			時間を取り、不安や要望・困っていることを聞いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時や来訪時には不安や要望を聞き、丁寧な説明を心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時に利用者や家族から要望を聞き、優先すべき支援は何か見極めるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が自立した生活が送れるよう職員と利用者が共に支え合えるような関係を築き、援助を行えるよう心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者だけでなく、家族の要望も支援の中に取り入れ、利用者が安心かつ快適に生活できるように関係を築くよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 心地よく過ごせる環境・雰囲気作りを心がけている。家族との外泊や外出など、本人や家族の希望に沿った支援を行うよう努めている。 (外部評価) 地域のふれあいサロンに出かけた際に、以前からの知り合いにお会いすることもあり、又、新しいお友達ができたりしている。一緒に囲碁を楽しまれたこともある。	利用者個々の以前の暮らし等を把握し、社会性や思い出をきっかけにして、利用者らしい暮らしが続けられるような支援に工夫して取り組んでいかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者同士の関係を把握し、利用者が孤立することがないように、上手くコミュニケーションが図れない利用者には職員が間に入り、利用者同士の関わりが持てるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			利用者本人や家族と築いてきた関係性を大切にはしているが、退所後の家族がホームに来ることはない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			日々の暮らしや会話の中から本人の要望や意向を聞き取り、ケアプランに反映させるようにしている。得た情報は、職員間で共有し日々のケアに繋げている。	
			(外部評価)	
			日頃の様子、支援時の言葉や訴え・表情等を記録されている。あまりお話をされない利用者もおられ、ご本人の気持ちを汲み取ることが難しい場合は、職員で話し合い検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			本人や家族から、生活歴や趣味などを聞き取り、馴染みの生活が日々の生活の中で生かせるよう心がけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			利用者ごとに1日の過ごし方を記録している。また、介護支援経過記録を書くことで、利用者の身体状態の変化を早期発見し、現状の把握とケアの改善に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	本人や家族から聞き取りにより情報収集し、介護計画書を作成している。また、毎月の勉強会時にカンファレンスを行い、職員からの意見やアイデアなども介護計画書に反映させている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	介護計画は定期的に見直しを行っている。利用者の状態に変化があった場合は、早急に状態を把握し再アセスメントを行ったうえで新たな介護計画を作成している。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	利用者や家族との聞き取りで、一人ひとりのニーズに合った支援ができるよう心がけている。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	地方祭では、たくさんの地域住民の方がホームに来られ、神輿や獅子舞を楽しむことができている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 2週間に1度、各利用者のかかりつけ医が往診に来てくださっている。また、24時間協力医による夜間や急変時の往診が可能である。	
			(外部評価) 入居時には、これまでのかかりつけ医と、他にも24時間対応可能な協力医で診てもらえることもできることを案内し、選択できるように説明をされている。調査訪問時、微熱がある利用者がおられ、職員は、主治医に連絡を取り、医師が往診に来てくださった。利用者の健康状態に変化があった場合、一目でご本人の健康状態・服薬状況が分かるよう、「緊急連絡カード」を作成しておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医と連携体制を取り、往診をしていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院中の利用者の状態については職員が病院を訪問し、主治医や病棟の看護師から状態を聞いたり、情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について、協力医との相談も行っている。事業所の体制や方針方針、地域の関係者と連携を行い支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者ご家族から、「事業所で看取ってほしい」と希望があり、ご家族が交代で付き添われて、昨年、1名の利用者の看取りを支援した事例がある。職員は、ご家族とご本人がお元気な頃のお話をされたりしながら看取られた。これまでは、「グループホームで看取るのは大変だから病院へ」「ここに居たいが食事が通らないので病院へ」と、入院を決められたご家族もあるようだ。今後は、利用者やご家族の希望に沿った支援が行えるよう、事業所の体制作りや医療連携を具体的に作っていきたいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		<p>(自己評価)</p> <p>利用者の急変時や事故時の対応マニュアルを作成している。職員がマニュアルはいつでも見ることができる場所に保管している。また、定期的に勉強会も行っている。</p>	
35	13	<p>(自己評価)</p> <p>災害時の対応マニュアルは職員に周知しており、定期的に訓練も行っている。</p>	
		<p>(外部評価)</p> <p>昨年度は、消防署の協力を得て、夜間の火災を想定して避難訓練を実施された。職員は、布団を使って移送することを体験されたり、職員同士で声をかけ合い連携することや、又、スプリンクラーが作動しなかった場合の対処方法を教えていただいた。「緊急対策マニュアル」を作成し、事業所には、1日分のチョコレートやビスケット・水を置いておられ、市内にある系列事業者には、3日分の米や補助食・水が備蓄されている。6月には、事務長が防火管理責任者の講習会に参加する予定となっている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
36	14	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの人格が尊重できるような声かけをしている。個人情報、外部に漏れることがないよう厳重に保管している。</p>	
		<p>(外部評価)</p> <p>管理者予定者は、「利用者個々のハートを大切に、声のかけ方、接し方に配慮しながら支援したい」と考えておられた。職員との意思疎通が思うようにいかない利用者の方がおられたが、職員は、ご本人の手をさすったり、できることが行えるような場面を作り、自信の回復を支援できるよう取り組み、徐々に職員とお話することや笑顔が増えてきたような事例がある。</p>	
37		<p>(自己評価)</p> <p>自己決定が可能な利用者については、本人の思いや希望に沿ったケアをするよう心がけている。自己決定が困難な利用者については家族と相談したり、利用者本人の表情等から気持ちを理解し、支援を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は、利用者が各自のペースでゆったりとした時間が過ごせるような環境・雰囲気作りを心がけている。また、利用者が孤立することのないよう声かけや見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 送迎付きの理容室を利用し定期的に散髪をしています。また、その人らしいおしゃれの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員と一緒に野菜の下ごしらえをし、下膳等利用者各自ができることは、無理のない程度で行っていただいている。	
			(外部評価) 事業所で採れた野菜等、旬のものを多く採り入れ、肉・魚を交互に使って食事作りをされている。調査訪問の日の昼食は、ご近所の方からいただいた筈で、タケノコご飯を作っておられた。又、代表者が作って来られた「ぬた」が食卓に上がっていた。利用者は、「味付けがいいね」と感想を話しながら食事されていた。利用者からの希望は、数日以内には反映できるよう努めておられる。「今日はお粥がいい」と言われる方もあるため、ご飯を冷凍しておき、いつでも作れるようにされている。利用者は、ピューラーを使って野菜の皮はぎをされることもある。食後は、ご自分の食器を流し台まで下げている方もみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の身体状況に応じた食事形態で食事を提供している。栄養バランスや水分量を気をつけなければいけない利用者には記録をし、栄養不足・水分不足にならないよう注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人の強い拒否があり出来ないときもある	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
				なるべく心がけてはいる。
			(外部評価)	
				下剤を服用し便が緩くなるため、紙パンツを使用している方もあったが、主治医と相談して薬を変更されたり、ケアでカバーすることで、トイレで排泄することができるようになったような事例がある。夜間のみパットを使用する方、ポータブルトイレを希望で使用されている方もいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
				排便や水分量のチェックを行っている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
				お風呂の順番などはなるべく偏らないようにしている。
			(外部評価)	
				週に2~3回入浴できるよう支援されている。入浴を嫌がる利用者の中には、居室で一緒に着替えを準備して、脱衣場に行くことで、入浴につながる利用者もある。入浴剤は季節や気分を変えたり、好きな歌手の歌を流したり、それぞれがご自分のタオルを使って体を洗えるように支援されている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
				本人の自由を尊重している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は利用者全員分を綴り変更などは周知するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 囲碁をしたり貼り絵など自由に楽しんでいる利用者もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) なるべく外出するよう心がけてはいるがなかなか行けていない。	
			(外部評価) 職員と利用者が話し合っって外出先を決めておられ、近所の神社に、菜の花や桜を見に散歩されたり、奥道後へも貸し切りバスで出かけられた。利用者は「外の空気は良いね」と喜ばれたようだ。ゴールデンウィークには交代で、市内の「れんげ祭り」に出かけることを計画されていた。職員と一緒に美容室・本屋に行く方や、ご家族と一緒に病院や買い物、食事、冠婚葬祭に出席される方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 紛失防止のため事務所にて保管している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にしてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
				季節の花を飾るようにしている。	
			(外部評価)		
			玄関には、あやめの花と兜を飾っておられた。利用者が「お雛様のあとは端午の節句飾りやな」と話されたことをきっかけに飾られたようだ。お花の好きな利用者が多く、職員は、自宅に咲く花を持って来られたり、事業所に咲く花を生けておられ、利用者同士でもよく話題に上っている。調査訪問時、おやつ前の時間には、利用者同士で囲碁をされたり、テレビを見て過ごされていた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)		
				気の合った利用者同士が並んでテレビを見たり自由に過ごせている。	
			(外部評価)		
			馴染みのものを自由に飾っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
				趣味の絵画に必要な絵筆や、ジャズがお好きな利用者はいつでも音楽が聞けるようCDを置いておられた。部屋の入り口には、利用者ご本人の名前と、入居した季節に咲く花の絵を貼って目印にされていた。	
			(外部評価)		
			トイレや部屋には札をつけ分かりやすくしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
				トイレや部屋には札をつけ分かりやすくしている。	